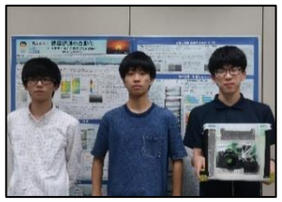
立高探究通信（仮）

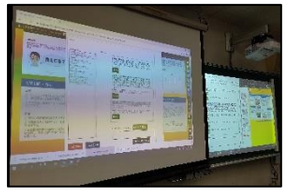
第５号
令和２年８月７日

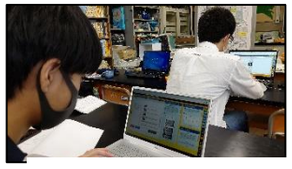
地球惑星連合　オンライン研究発表　入賞!!

地球惑星連合は、天文学会や地震学会、火山学会、気象学会、地理学会、アメリカ地球物理会など約 50 の学会が集まる日本でも最も大きな研究発表の場で、例年は幕張メッセで開催されます。今回は天文気象部が４年ぶりに高校生ジュニアセッションに参加し、６７件の発表の中で最高位の賞である優秀賞を得ました。



①　視程観測の自動化　～見えてる？ 画像観測データから探る視程の傾向～
　田中陽登・馬場光希・浜島悠哉　　優秀賞と優秀ポスター賞
②　70 年間にわたる黒点観測データの分析と今後の展望
　浜島悠哉　　優秀ポスター賞





ポスターを映し、議論しながらチャットで応答

今回は初のオンライン開催、「Ｉposter」という動画や音声も載せることのできる次世代型コミュニケーションツールでポスターを作成し、質疑応答はチャットで実施するという、新しい体験をしました。

まず、7 月 12 日にポスター公開と各校の 1 分間発表があり、19 日に質疑応答タイムがありました。90 分の質疑応答タイムでは次々と質問者が現れ、90 分間チャットで 140 件のやりとりがありました。3 台のパソコンとプロジェクターを使い、猛スピードで打ちながら応答、ライブ感のある時間となりました。九大、東大、京大、JAXA、気象庁、国立天文台他、10 数名の研究者と交流し、質問とアドバイス、評価と励ましをいただき、東大海洋研究所の立高 OB である鈴木健太郎教授からは、「立高生、頑張れー！」とのメッセージも！テスト期間中で大変でしたが、大変有意義で充実した会でした。2 週間後の全国 SSH 研究発表会と、これから作るこうち総合文化祭の発表動画に生かしていきます。　（記載　可長）

研究者の感想から・測器の開発から、観測方法の設定、過去データとの比較や原因の考察まで、高度かつ丁寧な研究で感動しました。私が管理する京都大学防災研究所の潮岬風力観測所でも導入したいくらいです。素晴らしい！
・ポスターを拝見、すばらしい内容の研究です。 私も高校生の時に似たり寄ったりなことをしたことがあるのですが、それよりも立派な研究で感動しています。・天文気象部による伝統的な気象観測研究の成果を背景として、観測装置の組み立て・設置や観測データの取得と保存、解析プロセスの開発を行ったこと、大変素晴らしいと思いました
生徒感想
・リアルタイムでやり取りができたので、ライブ感があり楽しかった。質疑応答の中で、新たな発見をすることが出来た。研究についてのお褒めの言葉も頂き、とても励みになった。
・今回はたくさんの高校が参加した中で優秀研究賞をいただくことができたのでとてもうれしく思う。リアルタイムのチャットでの質疑応答では、高校や大学の先生、研究所の方などと会話して、貴重なアドバイスをいただき新たな知識も多くあったので良かった。また、チャットでの会話ということで、次々と質問や感想が飛び交っていてある意味普段の研究発表会よりも活発で白熱した質疑応答だった

３年 SSH クラス、ディベート大会を実施

３年 G、H 組の SSH クラスが、「課題研究Ⅲ」の授業の中でディクテーション大会を実施しました。８月３日（月）の５時間目には多目的ホールで準決勝・決勝が実施され、熱戦を繰り広げました。

今回のテーマは「テクノロジーは人を怠惰にするか」。賛成派と反対派が直前に割り振られ、・自身の立場のスピーチ　・相手のスピーチに対する質疑応答　・相手の論旨に対する攻撃（まとめ）という過程を踏み、勝敗がジャッジ（牛込先生、森先生、アマンダ、ジェニファー）によって決されます。

この日は 1 年生も希望者が参観。総勢 100 人以上の見学者がいました。先輩達のやりとりに、1 年生は圧倒されていました。「3 年生になったらできるのかな。」や「自分もやってみたい、ちょっと楽しみ！」といった声が 1 年生からは聞かれました。

優勝は Ｇ 組チーム。優勝カップもアマンダから手渡され、充実した時間となりました。

理数研究ラボにチャレンジしよう

例年、リアルで行われている理数研究ラボが、今年はオンラインで開催されることとなりました。

自宅でも学校でも、どこでもできるという気軽さで、大学の先生から本格的な指導が受けられます。（先月紹介した「京都大学の講座」もそうです！）

ぜひ、「本物」に触れる体験をしましょう！

右は理数研究ラボのチラシです。

興味がある人は、4 階講義準備室まで来てください！